

令和4年10月14日

正和会視察報告

報告者 幡垣正生

【日時】 令和4年10月14日(月)13:30~16:30

【場所】 長崎原爆資料館、平和公園、浦上天主堂

【参加者】 石川義郎、山崎貴裕、小林貢、小澤芳輝、佐藤弘治、幡垣正生、武藤政義、
串田金八（議席番号順）

【目的】

GIGA スクール構想によって、教育面においても選ばれるまちづくりが必要となっており、そうした教育にも対応したAR(拡張現実)をしようした平和学習アプリによる「さるく」(ぶらぶら歩くこと)を実際に体験し、併せて平和活動に係る市民団体などの取組みや、折り鶴のリサイクルなどSDGsの取組みについても実際に見て、長崎の平和に対する取組みについての理解を深めることを目的としました。

【原爆資料館】

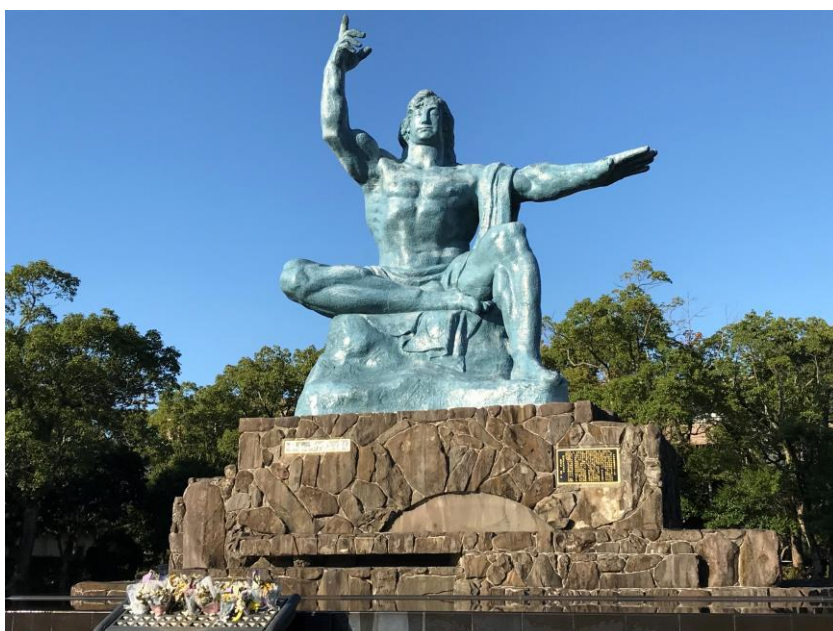
「1945年8月9日」「原爆による被害の実相」「核兵器のない世界を目指して」などのテーマに沿って、資料、写真、解説パネルなどが展示されていました。館内には折れ曲がった工場の鉄骨、爆心地側の部分が熱線により焼けた橋げたなど原子爆弾によって破壊された建物の一部が移設されているほか、原爆投下で時が止まったままの「11:02の時計」などの被爆資料を展示し、一部の資料には手で触ることができるようにしてあり、原子爆弾の悲惨さ、凄惨さを伝える。長崎型原爆とも呼ばれる「ファット



【平和公園】

ここでは数名に1台のタブレットが貸与され、実際にARを体験させていただきました。アプリを起動して現地を巡ると、被爆者の動画を視聴できるほか、その場所に関連した情報が入手できます。

また、この公園には多くのモニュメントがあり、さるくガイドさんから丁寧な説明をしていただきました。



【浦上天主堂】

1945年、原爆により浦上教会は無惨にも少しの堂壁を残し壊滅、アンジェラスの鐘も鐘楼もろとも崩れ落ちました。現在の建物は原爆投下から約14年後の1959年にコンクリートで再建されたのち、1980年にレンガタイルで改装し、当時の姿に似せて復元されました。周囲には被爆遺構の石像などが配され、今も原爆の爆風に耐えたもう一方のアンジェラスの鐘が時を告げています。浦上教会内の信徒会館1階には原爆遺物展示室が設置されています。



【所感】

ARの活用についてはとてもわかりやすいので驚きました。公園内のモニュメントなどをカメラで映すと、画面にその情報などが出てくるので、これについてはあらゆる観光地などで使えるものだと思います。

全体的には、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さなどがあらためてわかり、現実としてウクライナで起こっていることに対して怒りを覚えました。